

福岡県環境教育学会入会のご案内

～豊かな心 五感を育む環境教育～

《子ども達へのメッセージ》

今、子ども達に生きる力が問われています。あなたは、これから地球を担う子ども達にどんな大人になってほしいと思いますか？自分を取り巻くたくさんのつながりの中で、何よりも自分を、そして家族や友人だけでなくこの世に生を受けた生きとし生ける全てのものを大切にする心豊かな大人に育ってもらいたいですね。

約80億の人々が生活するこの地球上、それぞれの個性や違いを認めながら共に生きていくため、自ら学び、考え、問題解決できる人材の育成を目指し、そして何よりも我々大人自身がそうありえるよう共に考え、実践していきましょう。

《環境教育の必要性と課題》

身近なところでは遺伝子組み換え作物、農薬・肥料や食品添加物による食の安全、ダイオキシンや環境ホルモンによる健康被害や生殖機能の低下が、また地球規模では地球温暖化、オゾン層や森林の破壊と、様々な問題の深刻さが危惧されています。このように地域的なものから地球規模に至るまで幅広い問題に対応していくには地球市民の視点からの取り組みが必要であり、この地球市民育成のために環境教育の普及が重要であることが認識されてきました。

同時に、真に豊かな生活とは何かを地道に考え、見つめ直す時期に来ているとも言えます。異なる価値観をもつ多くの人達が集まり交流、情報交換することによって、環境に対する価値観も共有され、これによって社会問題への対応や環境保全が容易になることでしょう。環境教育は今や、持続可能な社会の実現のため、新しい教育・科学・文明の在り方を探求するという大きな命題を担っているのです。

《福岡県環境教育学会の発足》

1998年5月、福岡県内で環境教育の推進を図ることを目的に県在住の日本環境教育学会々員が中心となって

本学会の発足準備に入りました。同年8月30日、北九州市の山田緑地において行政、学校、企業、NGO等から、既に環境教育に携わっている、あるいはこれから何かを始めようとする人達が集い、共に学び、育み合う場として福岡県環境教育学会は発足しました。

年会

- 1 1998.8.30 (山田緑地) 2 1999.8.28 (福教大)
- 3 2000.8.26 (近大) 4 2001.6.10 (久留米市)
- 5 02.8.24 みんなで考える環境コミュニケーション(北九州市立大)
- 6 03.8.23 学校における環境教育(県社教総会)
- 7 04.8.7 身近な自然と親しむ環境教育(近大)
- 8 05.8.6 地域と未来をつなぐために！(えーるピア久留米)
- 9 06.8.5 地域文化と親しむ環境教育(九国大)
- 10 07.8.4 環境教育・フォア・オール(福教大)
- 11 08.8.3 持続可能な環境の未来を考える(近大)
- 12 09.8.2 地球温暖化防止の行動を起こそう！(久留米大)
- 13 10.8.8 環境教育の新しい展開-エネルギー環境教育の期待(丸大)
- 14 11.8.27 地域の環境保全、自然再生・創生と環境教育(福工大)
- 15 12.8.7 地産地消エネルギーと環境教育(近大)
- 16 13.8.4 自然エネルギーの活用による持続可能な地域社会の形成
- 17 14.8.10 地球から未来へ 動き出すESD(まなびとESDステーション)
- 18 15.8.8 循環型社会を”つづる・つづける”取り組み(福教大)
- 19 16.8.6 2030アジェンダと環境教育(近大)
- 20 17.8.6 地域活性化と環境教育(九国大)
- 21 18.8.11 未来を開く環境教育(福岡工業大学)
- 22 19.8.11 エネルギー新世紀！環境のSDGsを地域から考える(久留米大) ※23年会はコロナ禍のため中止
- 24 21.7.10 遠隔開催：一般発表のみ(北九州市立大)
- 25 22.8.20 みんなでつなぐSDGs(中村学園大学・短期大学部)
- 26 23.8.5 森・里・川・海をつなび、地域循環共生圏の実践とSDGsの達成を目指そう(遠賀川水辺館)

例会

- 1 1999.1.30 水辺の環境教育を考える(海の中道)
- 2 1999.4.24 大気環境教育を考える(九国大)
- 3 2000.2.12 国際理解と環境教育(北九州市立大)
- 4 2000.5.13 総合的な学習と環境教育(八木山 YH)
- 5 2001.2.24 手をつなぐ環境教育ネットワーク(柏陵高)
- 6 2001.11.8 いのちを支える食と農(福教大)
- 7 2002.6.1 環境教育に求められるボラ活(環境ミュージアム)
- 8 2003.3.15 里山で考える日本の農と林(黒木四季菜館)
- 9 2003.10.12 エネルギー・環境・ティン(福教大)
- 10 04.4.18 県内の環境保全・環境教育(福岡ボラ)
- 11 04.5.30 環境・なかまの輪を広げよう(中間)
- 12 04.11.23 和白干潟自然観察・グリーンパーク臨海見学
- 13 05.4.24 みんなで語ろう、食・農・環(北九富士見ホール)
- 14 05.12.3 地域が元気！いつでも、たれでも環境教育！(水辺館)
- 15 06.1.28 国際協力こねろ環境教育(KITA)
- 16 06.4.22 現生生物から太古の息吹を感じよう！(笹の浦)
- 17 07.1.21 こみと水の循環を体験(大木町くるみ、南部浄化センター)
- 18 07.7.12 平成時代伝説と河每瀬川上観察(若松区)
- 19 07.11.17 川と湿地を取り戻そう(遠賀川水辺館)

- 20 08.9.7 自然観察と昆虫の住める森づくり(青葉公園)
- 21 09.4.18 竹林さんまの集い(下田農園、合馬竹林公園)
- 22 10.1.23 水アクティビティから学ぶ環境(近大)
- 23 10.5.8 里山の生活と里山保全を体験(四季菜館)
- 24 11.4.16 循環型社会への人口生産と廃棄を考える(福教大)
- 25 11.10.23 地球を見つめる環境教育(北九州のこのおもしろ館)
- 26 12.4.15 春の野草を愉しむはらみの家(筑後川見聞館)
- 27 12.11.17 防災教育について考える(福岡市民防センター他)
- 28 13.4.20 ESD教材を探そう春の藍島の旅
- 29 13.11.10 多自然魚道を体験しよう(遠賀川河口堰管理支所)
- 30 14.6.14 観光と環境のコラボレーション(大木町くるみ、環境プラザ)
- 31 14.11.20 立花寺緑地フェスティバル(農園で地産地消と自然観察)
- 32 15.6.14 不思議な遠賀川ツアーで、まじの再生を考えよう！(折尾)
- 33 16.3.12 プロジェクトWET アクティビティその②(汚染の原因を)(近大)
- 34 16.6.18 豊かな自然と野生生物くるめがす・筑後川(河川敷)
- 35 16.11.26 猪倉町フィールドトリップ(北九大猪倉サテライト)
- 36 17.5.27 ローカルフードサイクリング(福岡市東区照葉コミュニティ)
- 37 17.12.9 プロジェクトWET エデュケーター講習会(近大)
- 38 18.5.26 平尾台、広原野原、青龍窟見学
- 39 18.11.17 エネルギーの地産地消(みやまスマートエネルギー)
- 40 19.5.18 フードシナジ福岡観察(フードシナジ福岡事務所)
- 41 19.11.16 遠賀川の水辺調査(遠賀川水辺館)
- 42 20.12.13 online 韓国スタディツアー2020(グローバルアリーナ)
- 43 22.1.23 水質試験とネイチャーゲームでSDGsを考えよう(くるめがす)
- 44 22.11.13 持続可能な循環型社会の基盤、3Rの最新情報を学ぶ(3R臨海パークステーション)
- 45 23.5.21 水道水専用の池(頓田町水池)を知ろう(北九州市立玄海青年の家、頓田町水池)

《学会が目指すこと、そして大切にしたいこと》

本学会は、福岡県内における会員相互の密接なパートナーシップにより、環境教育の充実と発展を図りながら、その社会的認識を高めることを目的としています。環境教育は教師だけで、また学校だけで行われるべきものではありません。

そこで、本学会は、環境教育に関心を持ち、その実践や啓発活動に携わる多様な市民や団体間のネットワークのキーステーションであるとともに、活動や成果の発表・情報交換・相互交流の場を提供できればと考えます。

環境問題は国籍・性別・民族は勿論のこと、大人であれ、子どもであれ、全ての人々に共通に関わってくる問題です。それぞれ立場の異なる人々が自由に発言や活動できるよう、本学会はどこにも偏らず、とらわれず、独立性・中立性を尊重する団体であることに努めます。

特定の組織やイデオロギーを超えて、地球市民の立場で地域との連携を深めながら活動する福岡県環境教育学会への多くの方々の参加を心より歓迎いたします。



□事務局 (局長・総務) 坂本 憲明 (福岡教育大学)

(会計) 金藤 芳就 (福岡県職員)

(庶務) 太田 泰弘・森本 美鈴
濱村 研吾・石原 忍

□会計監査 菅野 憲一 (近畿大学)
(外部) 平山 静男 (筑紫女学園大学)

《会員の種類と年会費》

- 個人会員 2,000円
- 学生会員 1,000円
- 団体会員 3,000円 (基本)
- 法人会員 15,000円

郵便振替口座 01720-3-76825
口座名 福岡県環境教育学会

※発足 26 年目の現在、会員は個人約 100 名となり、主な活動として、総会を含む年会の他に毎年 2 回の例会と 3 回のニュースレター発行を行っています。

《問い合わせ先》

福岡県環境教育学会

事務局
〒811-4192 宗像市赤間文教町1-1
福岡教育大学 理科教育研究ユニット
坂本 憲明 研究室 気付
Tel 0940-35-1359
E-mail① sakamoto@fukuoka-edu.ac.jp
E-mail② jimukyoku@fuku-kan-kyouiku.org

福岡県環境教育学会

Fukuoka Society of Environmental Education

福岡県内を北九州、福岡、筑豊・筑後の3地区に分けて次の役員が選出されています。

《役員》

- 会長 三宅 博之 (元 北九州市立大学)
- 副会長 野村 政修 (九州国際大学)
- 運営委員
- 北九州地区 太田 泰弘 (北九州市立自然史・歴史博物館)
川島伸治 (青い地球の会ブルーアース)
高倉弘二 (高倉環境研究所)
高橋俊吾 (カブトガニを守る会)
野井英明 (元 北九州市立大学)
野村政修 (元 九州国際大学)
森本美鈴 (ふくおか環境カウンセラー協会)
村江史年 (北九州市立大学)

- 福岡地区 石原 忍 (中村学園大学・短期大学部
ラーニングサポートセンター)
金藤芳就 (福岡県職員)
坂本憲明 (福岡教育大学)
鈴木清一 (元 福岡教育大学)
濱村研吾 (福岡県保健環境研究所)

- 筑豊・筑後地区 高橋幸子 (NPO 法人直方川づくりの会)
松田 寛 (林えいたい記念ありらん文庫)
守部進一郎 (松島産業)
辻 広明 (くるめネイチャーゲームの会)
時井純子 (青峰保育園)

福岡県環境教育学会

の

ご案内

～豊かな心 五感を育む環境教育～

福岡県環境教育学会

Fukuoka Society of Environmental Education

<http://www.fuku-kan-kyouiku.org>